

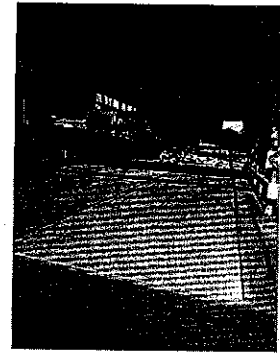
大阪故鉄、トラックスケールを更新

(大阪)大阪故鉄(本社=大阪市住之江区、矢追徹夫社長)は2日、本社のトラックスケールの入れ替え工事を実施し、更新を図った。

今回導入したスケールはダイトク(本社=大阪市大正区)製マルチロードセル6点式のスケール。幅3,000mm×長さ15,000mmの埋め込み式で、諸福工場(大阪府大東市)と操作機を同一にし、社内の仕様を統一した。今回で3代目となるが、2代目は約28年使用し、老朽化にともなう更新で、設置工事は1日で完了した(入替工事の様子と風景は同社HPに掲載)。また大阪府計量協会の許認可を受けており、計量証明事業も行なっている。

同社は1946年(昭和21年)創業の大手ヤードディーラー。本社の他、諸福工場(大阪府大東市)に拠点を

構え、スクラップ加工・販売だけでなく、鋼材の販売や建屋・機械設備の解体工事なども手掛ける。その他の主な設備は1250tスクラップシャー(本社および諸福工場)、800tマウントシャー(本社)、油圧プレス(本社および諸福工場)、天井クレーンなど。またこのほどHPも刷新し、同社の新鮮な情報を盛り込みながら、顧客だけでなく一般向けにもわかりやすく同社の魅力を発信している。



更新したダイトク製スケール